

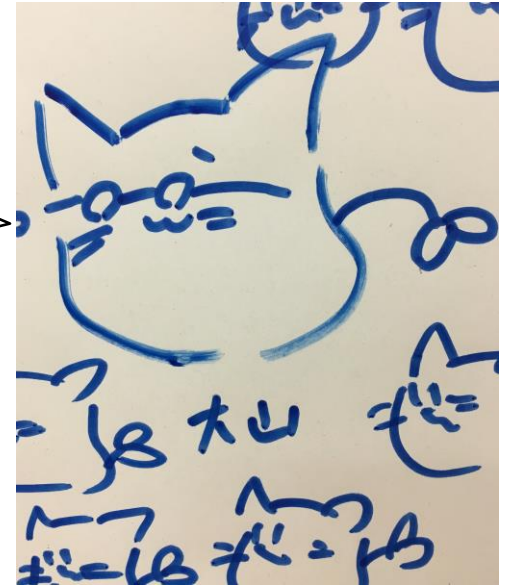
フリースペースって何？ ～地域にある子どもたちの居場所の役割～

独立行政法人国立青少年教育振興機構
青少年教育研究センター
研究員 大山 宏



自己紹介

以前、フリースペースで関わった中学生の女の子が描いてくれた絵



- 氏名：大山 宏（おおやま ひろし）
- 所属：独立行政法人国立青少年教育振興機構
青少年教育研究センター 研究員
- 研究テーマ：若者の社会参画、ユースワーク、居場所論
- 学生の頃からボランティア等でユースワークに関わる
- 東京都板橋区では、社会教育施設の内部に子ども・若者の居場所を設置する取り組みに関わる



自己紹介

現在の仕事の一例

- 子どもたちを対象とした全国調査（下のグラフ等）
- 青少年教育や子ども・若者支援関連のシンポジウムの企画

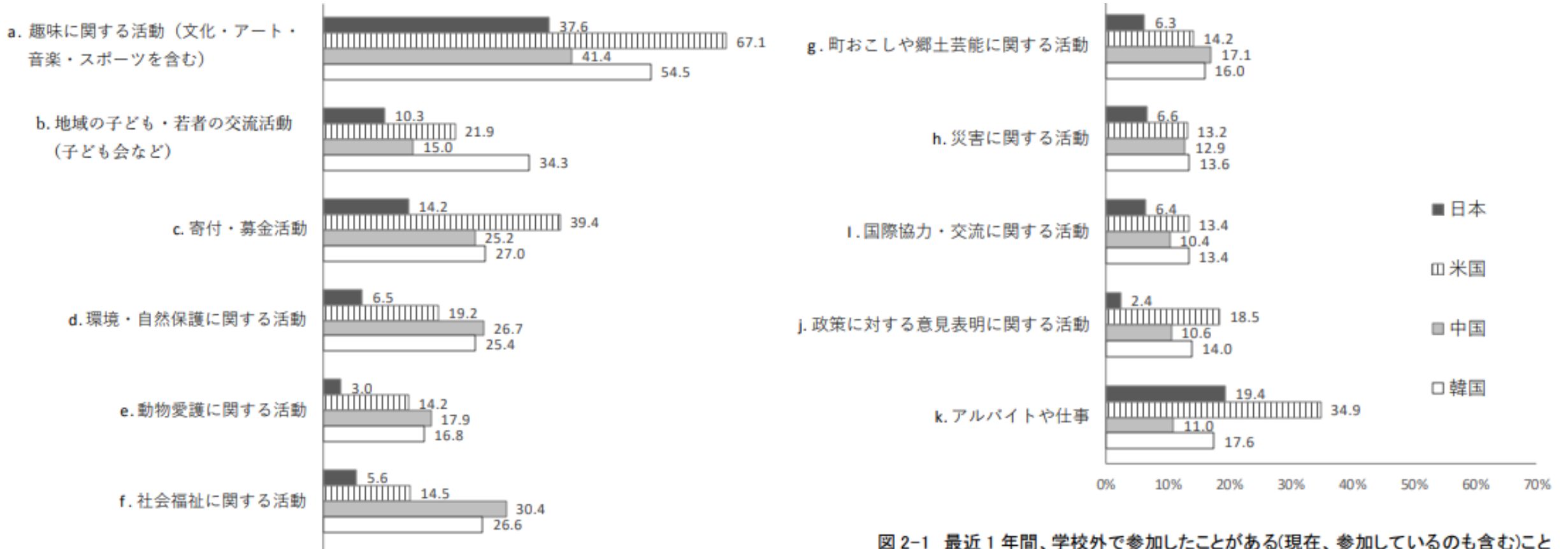


図 2-1 最近 1 年間、学校外で参加したことがある（現在、参加しているのも含む）こと



はじめに...

- フリースペースは、何がフリー（自由）？



- 「フリースペース」の設置母体や形式は様々
- フリースペースの定義は困難
- 不登校の子どもたちを対象とした場所、というイメージが強いだらうか？



はじめに...

- フリースペースは、何がフリー（自由）？



- 子どもたちにとってフリースペースとはどんな場所なのか、考えていきたい

「子どもたちにとって」というのも今日のポイントの一つ



今日お話しする内容

- フリースペースの枠組み
 - フリースペースの対象は？
 - フリーであることって？
- フリースペースの事例紹介
 - フリーな場で過ごす
 - 様々なフリースペース
- フリーな関わりのために重要なこと
 - 子どもに向き合う
 - フリースペースへの向き合い方



フリースペースの対象は？

「フリースペースって、
不登校の子どもが行くところでしょ？」

- 日本でフリースペースやフリースクールという言葉が使われ、広まっていったのは1980年代とされる
- 当時は、不登校の子どもたちの昼間の居場所として設けられていた



フリースペースの対象は？

不登校については、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得ることとして捉える必要がある。

不登校とは、多様な要因・背景により、結果として不登校状態になっているということであり、その行為を「問題行動」と判断してはならない。

文部科学省「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」（平成28年）より抜粋

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1375981.htm)

- 不登校は特別な子どもにだけ起こることではないと認識されるようになっていく



フリースペースの対象は？

アイクルフリーベース
**AIKURU
FREE BASE**
オスキノドウゾ



今日は少しでも
特別な楽しいをしよう。

対象：中学生以上の若者
参加費：無料 申込：不要
毎週金曜日 17時～21時 ※祝日、年末年始等広場閉室時はお休み
NPO法人 AIKURU 豊岡広場
入間市豊岡 1-8-39 サイオスパークビル 1F
Tel：04-2966-2848

- 不登校やひきこもりとされる人への対応が重要なことは変わらない
- より広く誰でも集まることができる場としてフリースペースを位置づける取り組みも増えてきている

このフリースペースでは、対象を
「中学生以上の若者」としている



フリーであることって？

いまの世の中、なんだか、みんなが値踏みされてます。学校に値踏みされ、会社に値踏みされ、親からも値踏みされ、友だち関係においてさえ、おたがいに値踏みしあっている。多くの人が「なにものか」でなければならぬと自分を追い立てつづけ、そのことに疲れ果てている。そんな感じがします。

野田彩花・山下耕平著『名前のない生きづらさ』子どもの風出版会、2017、p.196



フリーであることって？



「値踏みされる」とはどういう状況？

- 何らかの基準に基づいて評価にさらされること
 - 例えば学校であれば、「成績」
- 常により良い評価を得られる存在であることが求められ続ける
 - 「良い生徒」「優秀な会社員」「良い子」...



フリーであることって？

お母さん、僕は僕でよかったんだね

柳下換・高橋寛人編著、石井淳一・佐藤洋作・西野博之・奥地圭子著

『居場所づくりの原動力 子ども・若者と生きる、つくる、考える』松籟社、2011、p.174

- 上の文章は、東京シューレの理事長であった奥地圭子さんの、不登校だったお子さんの言葉
- 「学校に行かないこと」を受け入れてくれた人との出会いが上の言葉につながる



フリーであることって？

「僕は僕でよかった」と思えるためには、

何が必要だろうか

- 「なにものか」になれと要求され続けることは、子どもたちにとって今の自分を否定されることと表裏一体
- 「学校に行く良い子」であるべきだという評価の視点から、一度距離をとる取り組みによって、「僕は僕でよかった」と思えるように



フリーであることって？

- フリースペースは何が自由なのかと問われれば...
 - 「こうなるべき」という（勝手な）期待からの自由
- フリースペースに参加しても、「こうなるため」という期待が強いと自由とはいえない
 - 例えば、「学校に復帰するため」
- （大人が考える）良い反応・結果を期待しないことが重要
 - 子どもたちは「良い子」の反応を必ずしもしない



フリーな場で過ごす

どのように過ごしているのか？

- そうしたフリーな場で、子どもたちはどのように過ごしているのか
- ここでは私自身が関わった事例をはじめとして、いくつかご紹介したい



フリーな場で過ごす

東京都板橋区の生涯学習センター内に設置された
フリースペース

中高生・若者支援スペース i-youth

- ゆったり過ごすことのできるロビースペース、自習等に使えるライブラリ、ダンスや卓球ができるスタジオ等
- スタッフルームには出入り自由で、子どもたちのたまり場になっていることも
- 自治体の方針で小学生は主対象から外れたが、遊びに来る子どももいた



フリーな場で過ごす

来館する子どもたち（一例）

- 「暇だから来た」といって無目的にくる子ども
- 部活の一環でダンスをしに来る子ども
- 友だち同士で卓球をやりに来た子ども
- 受験勉強をするために来た子ども
- 塾に行く前後の隙間時間にピアノを弾きに来る子ども
- 学校に行けず、平日の昼間から夜遅くまでいる子ども
- 学校とも親とも折り合いが悪く、家に帰ってない子ども

...この他にも、多様な過ごし方をしている



フリーな場で過ごす

- ルールはできるだけ少なくした
- 乳幼児も使う部屋での飲食禁止等は、しっかり理由を説明すればわかってくれる
- 大人の事情によるルールはなかなか納得してくれない



フリーな場で過ごす

- 「やりたい」、「面白そう」と思ったことは、できる限りやってみる。何も大掛かりなイベントである必要はない
- 音楽、ダンス、卓球、料理等は特に関心を持つ子どもが多い

子どもたちは自分で材料を持ってきて、自由に料理をしている
写真はたこ焼きならぬソーセージ焼き



フリーな場で過ごす

大人の関わり方

- 子どもたちと関わってくれる大人もいた
- ただ、毎回約束してもらおうことが一つ

「子どもたちのために、

何かしてあげようとしないでください」

- 何よりも、大人自身も一緒に楽しむことを大事に



様々なフリースペース

AIKURU FREE BASE

- 「オスキニドウゾ」がキーワード
- 仲間のやりたいことに、協力してもしなくても良い。関心があればみんなですべて色々なことをやる
- 地域の大人から持ち込まれる話も、子どもたちが関心があればやってみる



様々なフリースペース



- 地域の中の様々な場所がフリースペースになり得る。大事な
のは、子どもたちがフリーでいられること
- 子どもたちは、以下の二つの要素があれば、自然とあれこれ
やりだすんだと話してくれた人も
 - 否定されることはないと思える「安心」
 - 自分たちで試行錯誤できる「工夫（の余地・余白）」



様々なフリースペース

小学生への対応について

- 紹介した事例にも、小学生は来ている
 - 中高生を主対象とする場の増加は、これまで地域で中高生の居場所がなかったことが影響
 - 一方で、小学生対象の場が十分だったかは疑問
 - 「自由」であることは年代を問わず重要
- 少し上のお兄さん・お姉さんの姿が、小学生のなりたい自分のイメージ形成にもつながっていく



様々なフリースペース

こうしたフリーな場があることは、子どもたちにとってどんな意味があるか

- 必ずしも活動的である必要はないが、様々な子が同じ空間を共有し、出会えることには意味がある
- 様々な人に出会うこと、いろいろなことをやってみることで、少しずつ自分の世界が広がっていくこと



子どもに向き合う

子どもたちにどう向き合うか

- 子どもたち自身が「値踏み」されずに安心して過ごすことができると感じているかが重要
- 子どもが自分で思いを表現するまで待つことも必要
- なりたい自分の姿を自分で考え、模索を続けることができる場となっているか



子どもに向き合う

- 「子どものために」と思うと、大人側もしんどくなりやすい
- 「こうあるべき」ではなく、「私はこう思う、こう感じた」と、自分を主語にして思いや考えを伝えていくことが重要
(アイメッセージ)
- 大人も子どもも関係なく、等身大の人間同士として出会うこと
 - そうした出会いが「フリースペース」以外でもできると、社会全体が「フリー」になっていく



子どもに向き合う

「等身大の人間同士として出会う」ために

- 子どもたちと接する際に、「普通」や「当たり前」等を背負わないこと
 - 「普通こう考える」「学校に行くのが当たり前」...
- 子どもたちの思いを大事にすること
 - 子どもたちの行為の結果（例えば「学校に行けていない」）ではなく、その背景にある子どもたちの思いや感情を大切に



子どもに向き合う

- 自分たちの思いも、「普通」や「当たり前」を通さずに、大事にすること
 - 子どもたちが何を感じ、どうなってくれたら「嬉しい」だろうか？
- 大人の思いに子どもが合わせることは「当たり前」ではない
- フリースペースは、大人と子どもの対等なやり取りができる場であるはず
 - 子どもへの接し方に悩んだら、大人も相談を



フリースペースへの向き合い方

フリースペースを支えるためには

■ 運営母体は多様

- i-youthは公設、AIKURUはNPO法人...
- 公設公営、公設民営、民設民営、どれもあり得る
- スタッフの雇用形態も様々だが、不安定な場合が多い

■ 子どもたちの置かれた状況に課題を感じて、取り組んでいる団体が多い

- 子ども食堂等を兼ねていることも



フリースペースへの向き合い方

■ 運営上の課題

- 子どもをはじめとした、ニーズのある人へのアクセス
- 予算、必要な物資
- 地域のネットワーク

■ 普段からつながっていることの重要性

- 困っている子どもや保護者がいたときに紹介できる
- 寄付、必要なものの差し入れ
- 子どもたちの活動のサポート

応援してくれる人がいると伝わるのが、何より支えに！



おわりに・本日の要点として

■ 子どもたちの現状

- 「良い子」「良い生徒」になるように、常に求められすぎている
- 「値踏み」されず、安心して過ごすことができる場が必要

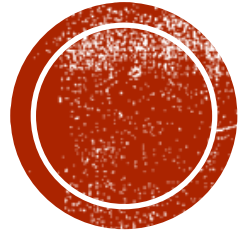
- 「普通」を背負わず、一人の人間として接してみよう
- 接し方で悩んだら相談を

■ 地域のフリースペースの意義

- 様々な人やものに出会うことのできる場
- なりたい自分に向けて模索を続けることのできる場
- 子どもだけでなく、大人にとっても大切な場

- 子どもの「安心」が「出会い」や「模索」の土台になる
- 大人にも様々な出会いを





ご静聴、ありがとうございました

